

製品名: NGFR マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80792**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	45kDa

抗原情報

遺伝子名	NGFR
別名	CD271; p75NTR; TNFRSF16; p75(NTR); Gp80-LNGFR; NGFR
遺伝子 ID	4804.0
SwissProt ID	P08138
免疫原	大腸菌で発現したヒト NGFR の精製された組み換え断片。

背景

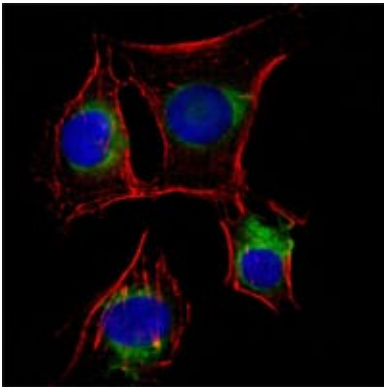
神経成長因子受容体には、保存された位置に 6 つのシステイン残基を持つ 40 アミノ酸の繰り返し配列 4 つを含む細胞外ドメインがあり、その後セリン/スレオニンに富む領域、単一の膜貫通ドメイン、および 155 アミノ酸の細胞質ドメインが続きます。システイン

に富む領域には神経成長因子結合ドメインが含まれます。NGFR p75 は、発達中の CNS におけるアポトーシスによる細胞数の調節において中心的な役割を果たしています。発生初期には、NGF による NGFR p75 の活性化が一部の神経細胞でアポトーシスによる細胞死を誘導しますが、これはおそらくスフィンゴミエリナーゼ/セラミド経路、ICE 様プロテアーゼ、および JNK 経路の活性化を介して行われます。ラットのシュワン細胞では、NGF が NGFR p75 に結合して NFκB を活性化し、神経再生中のシュワン細胞の移動を調整していると考えられます。CD271 は最近、間葉系幹細胞 (骨髄間質細胞) で発現していることが報告されました。

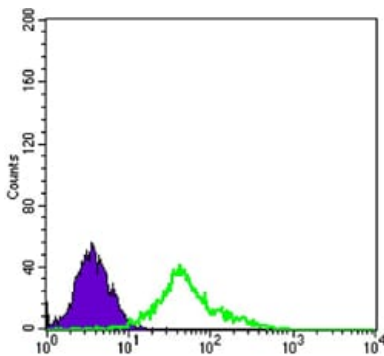
研究分野

アポトーシス、TGF-β シグナル伝達経路、PI3K-Akt シグナル伝達経路、Hippo シグナル伝達経路

画像データ



NGFR マウス mAb (緑) を用いた EC 細胞の免疫蛍光染色。赤: アクチンフィラメントを DY-554 ファロイジンで標識。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。



NGFR マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (紫) を使用した EC 細胞のフローサイトメトリー分析。